

【資料】令和6年度

神戸市立博物館事業自己点検評価

神戸市立博物館は下記の4項目をその「使命」として位置づけています。

- (1) 神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- (2) 市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまでにない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。
- (3) 博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。
- (4) 阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

上記の「使命」の実現のため、神戸市立博物館は下記の4つの「博物館使命の4大要素」を定め、これらが包含する事業に対する自己点検評価を行っています。

1. 歴史と文化の継承と研究
2. 歴史と文化への窓口
3. 人々とともに歩む
4. やさしさと安心の確保

令和6年度の神戸市立博物館事業自己点検評価の「総評」は下記のとおりです。

【総評】

博物館使命の4大要素のうち「1.歴史と文化の継承と研究」「3.人々とともに歩む」はA評価、「2.歴史と文化への窓口」「4.やさしさと安全の確保」にはB評価とした。

「1.歴史と文化の継承と研究」については、歴史分野を中心に展示活用可能な資料収集がなされるとともに、展示環境・保存を適切な状態に維持するなど、所定の役割を果たすことができた。当館のコレクションの礎である「南蛮美術」「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」「古地図」などについての調査研究、その成果として自主企画展を開催したほか、研究紀要を滞りなく刊行した。引き続き、貴重なコレクションを後世に伝えるべく適切な資料保存に努めるとともに、調査研究を実施していく。

「2.歴史と文化の窓口」については、特別展の企画内容や図録などの充実度の高さ、事故や遅延なく開催・終了できたが、いずれの展覧会も目標入場者数に及ばなかった。学芸員が一から作り上げていく自主企画展については、企画性の高さを保ちつつ、国の補助金の活用等を検討するとともに、大型巡回展については当館での開催時期やより効果的な広報戦略の展開等を検討しながら取り組んでいく。

「3.人々とともに歩む」については、地域に開かれた博物館を目指し、夜間の開館時間を6月より金・土20時まで延長した。地階講堂を活用した音楽ライブ、ダンスパフォーマンス、ナイトタイムでの学芸員の展示解説会を実施するなど、ナイトタイムエコノミーに資する取り組みをすすめたほか、周辺集客施設との相互割引や相互サービスなどとの連携に取り組んだ。学校との連携では、博物館の職員・学芸員が学校に出向き、学校教員と連携して授業をつくりあげるアウトリーチ活動のほかに、オンライン授業プログラムを試行した。学校連携においては最終的に児童生徒に博物館に来てもらって本物に触れてもらうことを念頭に、今後も新たな取り組みを進めていく。

「4.やさしさと安全の確保」については、建物・設備の適宜修繕などを実施し、安全管理に努め、来館者の快適な観覧に寄与するとともに、館蔵資料の資料・作品の保管管理に努めた。大規模災害への対応として、特別展開催の都度、博物館防災計画に基づく消防訓練及び地震・津波を想定した避難訓練を実施するなど、全職員・運営スタッフの危機管理意識を醸成した。

博物館法の改正により地域の多様な主体との連携や文化観光・まちづくりなど地域活力の孤向上に寄与することが求められるなど、取り巻く環境が大きく変化している。資料の調査・研究・保存・活用というこれまでの博物館に求められる役割を果たしながらも、今回の自己評価で明らかになった様々な課題に適切に対応していくことで、引き続き博物館の使命を果たせるよう取り組んでいく。

評価 A 優れている

評価の詳細

歴史分野を中心に展示活用可能な資料の収集がなされるとともに、展示環境・保存環境を適切な状態で維持するなど、所定の役割を果たすことができた。当館のコレクションの礎である「南蛮美術」「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」「古地図」などについての調査研究、その成果として自主企画展を開催したほか、研究紀要を滞りなく刊行した。引き続き、貴重なコレクションを後世に伝えるべく、適切な資料保存に努めるとともに、調査研究を実施していく。

また、博物館法の改正趣旨を反映し、主要な所蔵資料を高解像度の画像で提供するなど、デジタルアーカイブの取り組みも進めており、公開件数、アクセス数とも増加している。

以上のことから、本稿目をA評価とする。

1-1-01 資料受入

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

各分野とも、博物館の理念・使命に念頭を置き、当館の展示・研究に活用できる作品・資料を受け入れることができた。

1-1-01-01 資料購入・寄贈・寄託・保管転換

P課題と目標

【購入】・【寄贈】・【寄託】それぞれにおいて、博物館の収集方針や活用計画に沿った実績を目指す。

【5年度実績】

- ・購入 3件3点
- ・寄贈 2,723件5,513点

D実施内容

【購入】5件5点
詳細は報告編p.4
【寄贈】25件65点
詳細は報告編p.4

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・収集方針に即して、展覧会並びに調査研究で活用が見込まれる、神戸の歴史・美術に関する資料を館蔵品に加えることができた。
- ・資料の寄贈においては、旧蔵者の意向に沿った受入れ手続きを進めることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

1-1-02 資料保存

評価 A 優れている

評価の詳細

展示保存環境に対する日常的な監視体制が根つきつつあることを感じる。予期せぬ異常事象に際しても適切な処置ができ、事態の深刻化を避けることができた。一方で、燻蒸剤の廃止・変更など、殺虫菌作業の困難化が予想されるので、適切な対処が望まれる。

1-1-02-01 収蔵庫・展示室の保存環境

P課題と目標

- ・温湿度モニタリング(収集・回覧):毎週、収蔵庫清掃及び収蔵庫トラップモニタリング:毎月、生物環境調査:2回(6月～10月)を実施する。
- ・虫害菌記録の共有と環境保全を行う。
- ・温湿度管理は、「収蔵区域」における±5%・2℃以内の変動に抑える。「神戸の歴史展示室」において、温湿度の変動を極力抑えるための対応、展示資料の適切な選定を行う。
- ・特別展示室2倉庫の適切なIPM環境維持を行う。
- ・「異常事態」(展示・収蔵区域での虫菌類の大発生、適切な温湿度レンジを大幅に逸脱する状況など。また地震や風水害など、保存環境に大きな影響を及ぼす外的要因も含む)が発生した場合、迅速に対応する。

D実施内容

- 【温湿度モニタリング・虫類確認】収蔵庫および展示室にて適切な温湿度環境が保たれていることを確認している。
 - 【収蔵庫などの清掃】4階収蔵庫:毎月1回実施。特別展示室2奥倉庫、展示準備室:重点清掃の実施
 - 【燻蒸】1回
 - 【生物環境調査】定例2回、臨時2回
 - 【館内殺虫業務】1回
 - 【その他】毎日朝夕の展示室での巡回確認など、日常的な温湿度・虫菌害対策用のメンテナンスなどを随時実施している。今年度は「異常事態」は生じなかった。
- 詳細は報告編p.5

自己評価 A 優れている

自己評価の詳細 プラス面

- ・温湿度モニタリング、収蔵庫清掃および収蔵庫トラップモニタリング、生物環境調査など定例の業務は着実に実施した。
- ・燻蒸に使用していたエキヒュームSが今年度末で製造中止されることを受け、情報収集を行い、来年度以後の方針を決定することができた。
- ・館内の関係者全員に虫害菌記録を共有し、ゴミの廃棄・処理方法を周知することで、博物館環境の保全に努めた。
- ・温湿度の変化や虫の発生に対し、業者による応急処置、加湿器・除湿器の導入や清掃などの対応を都度取り、状況を改善することができた。
- ・カビ発生の可能性が疑われる状況に対し、万が一発生していた場合速やかに対処できるよう追加の生物環境調査を行い、安全を確認することができた。
- ・神戸の歴史展示室においては、日々のモニタリングに基づいた空調操作及びシャッター開閉により、目標としていた温湿度環境を実現できた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・資料への被害は確認されなかったが、夏から秋にかけて、収蔵区域でチャタテムシが多く出現した。特別展示室2奥倉庫で夏季にチャタテムシの発生数が増加した。
- ・一部空調の不調により、温湿度環境が不安定となっている場所がある。

1-1-03 資料補修

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

令和7年度に予定されている重要文化財の応急補修についても、手続きを問題なく進行できている。計画された資料の補修を完了させることができた。ただし、屏風などの大型の資料の補修方法については、その実現に向けてさらなる考慮が必要である。

1-1-03-01 資料補修

P課題と目標

- ・来年度は特に予算と工期を要する補修希望資料があるため、準備と十分な補修時間を確保するため、補修資料の選定を年度当初に行う。
- ・展示計画、総合資料調査を行うなかで、担当者が資料の状態を的確に把握する。
- ・資料の状態に応じて速やかに補修業務を発注する。

D実施内容

【補修実績】

- 補修1件1点
- 軸首交換6件6点
- 現況調査1件21点
- 令和7年度に実施する大規模補修資料を決定
- 詳細は報告編p.6

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・本年度実施を計画していた資料の補修作業をすべて問題なく終えることができた。
- ・単年度内で工期を十分に確保するため、翌年度に補修を行う資料を年度内に選定し、来年度の契約にむけて委託審査会での承認を得た。選定した資料は重要文化財に指定されており、文化庁への申請なども恙なく行うことができた。

自己評価の詳細 マイナス面

1-1-04 調査研究

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

研究テーマに沿った調査は適宜行われ、その成果にもとづく自主企画展の準備も整いつつある。研究発表も前年度とほぼ同様の実績で館蔵品目録と研究紀要は予定通り発行されるなど、研究成果の発信も予定通り行えている。デジタルアーカイブは公開件数が目標を上回り、アクセス数も増加するなど、当館の調査研究活動がより広く知られる流れができつつあるように感じられる。

1-1-04-01 調査研究計画(自主企画展計画含む)・館外資料調査

P課題と目標

- ・学芸員それぞれが、今年度、次年度以降の展覧会を見据えて計画的に調査を実施する
- ・次年度以降の展覧会に向けて関係諸機関と調整を進めるとともに、年度末には進捗状況を館内で共有できる調査シートを作成する。
- ・アンケート対象者に定期的に声かけをすることでスムーズな回収と集計に努める

【昨年度実績】

展覧会に関する調査36件

D実施内容

【実施件数】

- 調査先89件
- 作品件数1,134件
- 展覧会に関する調査45件
- ※複数名での調査を含むため重複あり
- 詳細は報告編p.6

次年度以降の開催予定展覧会の進捗状況

特別展「池長孟の南蛮美術一言葉から紡ぐ創作(コレクション)」

特別展「銅鐸とムラ—国宝 桜ヶ丘銅鐸をめぐる弥生の営み」に伴う調査が実施された。

詳細は報告編p.6

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・各学芸員が、それぞれの担当する展覧会に向けての調査に取り組むことができている。
- ・研究テーマに沿った調査も、適宜おこなわれている。
- ・「池長展」「銅鐸展」ともに、出品される作品や関連する作品に対する資料調査がおこなわれている。

自己評価の詳細 マイナス面

1-1-04-02 研究成果発信(執筆・講演・発表等)

P課題と目標

- ・博物館の事業及び個人の研究テーマに係る研究論文(査読論文)、執筆(査読論文以外の論文、図録解説以上の解説および報告など)、普及系記事(新聞記事など)、学会発表、講演(1時間以上)などにより、研究成果を積極的に発信する。

【昨年度実績】

執筆30件 普及28件 講演:3件 研究発表:2件 その他:7件

D実施内容

【実績】計58件

詳細は報告編p.6

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・全ての学芸員が、執筆、普及、講演、研究発表、その他、のいずれかにて、一つ以上の実績を積むことができている。
- ・発信する内容は、学芸員自身の研究内容、館蔵資料について、展覧会について、と多岐にわたっており、偏りなく幅広く発信できている。

自己評価の詳細 マイナス面

P課題と目標

・『館蔵品目録』考古・歴史No.39／美術No.39: 令和6年3月末公開 ※当館HPにてPDF版
 ・『研究紀要』40号: 令和7年3月末刊行
 ・『研究紀要』39号(既刊): 令和7年3月末公開(予定) ※文化財論文ナビ上にてPDF版
 ・『年報(令和5年度)No.40』: 令和7年3月末公開(予定) ※当館HPにてPDF版
 上記の刊行、公開を行う。

D実施内容

・『研究紀要』No.40を刊行。
 ・『館蔵品目録』(美術の部、考古・歴史の部)No.39を当館HP上で公開。
 ・『年報』No.39(昨年度未刊行分)を当館HP上で公開。
 ・『事業点検評価報告編(年報)』No.40を準備中。令和7年度初めに公開予定。
 詳細は報告編p.6

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

【『研究紀要』】

・館蔵品及び神戸の歴史・文化等に関する調査研究の成果を4本の論考として刊行できた。

自己評価の詳細 マイナス面

【『年報』】

・年度内を予定していたNo.40の公開ができなかった。

1-1-04-04 デジタルアーカイブの作成

P課題と目標

・館蔵品データベースを基にした公開資料(デジタルアーカイブ)を充実させる。現在1721件の公開資料があり、予定数(公開資料とすることを目標としている資料、作品の数)の1900件公開に向けて、写真撮影等の準備を行い、資料・作品の公開活用を行う。

【昨年度のデジタルアーカイブアクセス数】

292,962件

D実施内容

川西英「神戸百景」、ガラス工芸を中心に223件を新たに追加。文化遺産オンライン及び当館HP「コレクション」での公開件数は1942件となった。
 詳細は報告編p.7

デジタルアーカイブ(文化遺産オンライン及び当館HP「コレクション」)のアクセス数は385,311件。

詳細は報告編p.7

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

・館蔵品の公開資料化を進め、デジタルアーカイブの内容を拡充することができた。
 ・デジタルアーカイブのアクセス数が、昨年度より増加した。

自己評価の詳細 マイナス面

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

特別展の企画内容や図録などを充実させ、事故や遅延なく開催・終了できたが、いずれの展覧会も目標入館者数に及ばなかった。学芸員が一から作り上げていく自主企画展については、企画性の高さを保ちつつ、補助金の活用を検討するとともに、大型巡回展については当館での開催時期やより効果的な広報戦略の展開等を検討しながら取り組んでいく。引き続き、来館者の高い満足度を維持しながら観覧者数の増加に努めていく。画像利用・館外貸出は問題なく円滑に対応できている。

以上のことから本稿目をB評価とする。

2-2-01 常設展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

神戸の歴史展示室にて震災や海軍操練所に関連する展示を追加することができた。コレクション展示は、これまでの調査研究・収集成果を生かした内容で行うことができたが、今後の効率的で安全な展示作業について課題が認識された。

2-2-01-01 神戸の歴史展示室

P課題と目標

- ・交流を中心とした神戸の歴史を伝えることのできる展示を行う。
- ・大人から子供まで楽しむことのできるわかりやすい展示を行う。
- ・地域文化財展示室においては、中長期的な展示計画を立て、多様なテーマで神戸市と周辺地域についての展示を行う。
- ・資料保存の観点から、展示替えを行う。

D実施内容

【総入館者数】97,133人
【満足度】88.49%
【展示内容】
[原始]「海の回廊～東アジアとの交流～」／[古代中世]「大輪田泊から兵庫津へ」 展示替え:1件／[近世]「兵庫津の繁栄」展示替え:4件／[近現代]「開港 ～世界との交わり」 展示替え:6件
詳細は報告編p.8
【音声ガイド】本年度利用者数:2,437人(前年度:1,771人)
【地域文化財展示室】
展示替え:4回 詳細は報告編p.14
【令和7年度の展示計画】
次年度の広報印刷物準備に伴い、11月に地域文化財展示室の展示計画をまとめた。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・東西文化交流についての視点から、日頃からの館蔵資料研究の成果を活かした展示を行った。
- ・音声ガイドの利用者数が前年と比べ増加した。
- ・数年来不安定であった展示室内の湿度状況が、日々の状況観察および空調管理により改善され、安定した数値を保てるようになった。
- ・限られた展示スペースを十分に活用しながら、適宜資料の展示替えを行えた。
- ・阪神・淡路大震災から30年にあたり、関連展示を充実させ、より伝わりやすい内容にできた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・経年による展示スポットの不調が頻発し、展示の見やすさにも影響が出ている。

P課題と目標

- ・昨年度1日平均入場者数を上回る入場者数を目指す
 - ・学芸員の調査研究、資料収集を反映し、かつ資料保存を考慮した展示を実施する。
 - ・特別展来場者に関心をもってもらえるよう展示を企画し、次年度以降の展示中長期計画を策定する。
 - ・パネル、キャプション等の正確な情報発信に努める。
 - ・各学芸員が積極的に展示作業に取り組み、作品資料の取り扱いにかかるスキルアップを心掛ける。
 - ・目標満足度83以上。
- ※昨年度実績【コレクション展示室総入場者数/総入館者数】28,144人/273,833人(10.3%)
(以下2024年3月17日時点)1日平均入場者192人(開館日数:146日間)

D実施内容

- 【コレクション展示室総入場者数/総入館者数】44,207人/213,350人(20.7%)
1日平均入場者数167.4人(開館日数264日間)
- 【特別展毎の入場者数】※コレクション展示入場者数/特別展入場者数
- 特別展「Colorful Japan」8,725人/14,351人(60.7%)
特別展「テルマエ」10,696人/27,920人(38.3%)
特別展「デ・キリコ」16,662人/76,685人(21.7%)
特別展「古地図からひろがる世界」「日本銅版画 30の極み」6,480人/9,945人(65.1%)
- 【満足度】88.43
【展示内容】
詳細は報告編p.15

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・各展示室で、学芸員が館蔵資料・寄託資料の調査研究・収集の成果にもとづき、さまざまなテーマを設定して展示を構成し、資料の魅力を伝える場を設けることができた。
- ・今年度受贈した資料の受贈記念展示、近年の新規収蔵資料展示を実施し、博物館の資料収集活動について紹介することができた。
- ・当館の所蔵品を主体に据えた特別展の会期中は、特別展入場者の60%超がコレクション展示室にも入場していた。
- ・目標満足度を達成することができた。
- ・次年度のコレクション展示について、上半期は展示担当者と展示テーマ、下半期は展示担当者まで決定した。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・1日平均入場者数が目標数値を下回った。
- ・展示室内に掲示したパネルやキャプションについて、お客様から誤字の指摘を受けたことがしばしばあった。

P課題と目標

- ・開催中の展覧会やコレクション展示にあわせて、関連図書の配架を行う。
- ・端末のデータ性能を踏まえながら、情報コンテンツの更新と拡充を行う。

D実施内容

- 【関連図書】
情報コーナーには、現在開催している展示や所蔵資料、神戸の歴史を知る上で不可欠な書籍を厳選して配架。
- 【情報コンテンツ】
デジタルアーカイブを閲覧することができる情報端末を3台設置している。
「描かれた神戸 写された神戸」では中世～昭和前期の絵画・写真に記録された神戸の景観イメージ1124件を公開中。
「コレクション検索」では1287件の情報を公開中。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・受入図書の内容に応じて、情報コーナーに適切に配架できた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・端末の容量オーバーにより、新たなコンテンツを拡充することができなかった。
- ・展覧会関連書籍の紹介コーナーを設けることができなかった。

P課題と目標

- ・教育普及事業の場として「子供から大人までが楽しめる」ワークショップを行う。
- ・教材、資材、子供向け書籍の維持管理を行う。
- ・掲示やSNS等を通じて、体験学習室への誘導を図る。

D実施内容**【展示】**

- ・土器や銅鐸のレプリカ、遣唐使船模型、竪穴住居模型等、神戸の歴史や文化に親しんでもらえるような展示を常時行っている。

【教材、資材、書籍】

- ・木製パズル、年表パズルシート等を引き続き設置している。
- ・歴史や美術、文化に関する書籍をいつでも読むことができるよう配架している。

【利用状況】

学習支援交流員が定期的に案内やワークショップを実施している。

学習支援交流員のワークショップ34回(昨年度5回)

特別展開催時のジュニアミュージアム講座、夏休み特別イベント(浮世絵摺り体験会)、ナイトタイムミュージアムのワークショップ開催時には会場として使用している。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)**自己評価の詳細 プラス面**

- ・来館者が歴史や美術、文化に触れ、学ぶことができる場として安全に運営することができた。
- ・学習支援交流員によるワークショップの回数が大幅に増加した。
- ・学習支援交流員やナイトタイムミュージアムなどのワークショップを実施することで、体験学習室への来館者誘導につなげることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・学習支援交流員によるワークショップについて、SNSでの発信がほとんどできなかった。
- ・展覧会等に合わせた書籍の配架が不十分だった。

2-2-02 特別展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

令和6年度は「Colorful JAPAN—幕末・明治手彩色写真への旅」、「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」、「デ・キリコ展」、「古地図からひろがる世界—南波松太郎・蒐集70年の軌跡—」、「日本銅版画30の極み」と、特別展5本を安全に遅滞なく開催することができた。このうち、「Colorful JAPAN」展、「古地図」展、「日本銅版画」展は学芸員による館蔵資料の研究を契機とした自主企画展、「テルマエ展」は人気漫画「テルマエ・ロマエ」をフックとして「イタリアと日本の入浴文化を比較する」ことを企図し、メディアと巡回館の学芸員が企画した展覧会、「デ・キリコ展」は20世紀を代表する芸術家の一人に焦点をあてた大型海外展となる。

いずれの展覧会もアンケートの満足度は高く、来場者には好評であった点は評価できる。目標入場者数には届かなかった。

「Colorful JAPAN」展、「テルマエ」展では、民間事業者とも連携しながら、ツアー造成、外国人のための鑑賞会など、多様な事業を展開し好評であった。「古地図」展、「銅版画」展については、図録の購入率が高く、学術的な意義が高く評価された。

いずれの展覧会においても、周辺のホテルや商業施設、展覧会のテーマと関係の深い観光施設などと相互割引・相互サービスを実施、地域経済の活性化に寄与すべく取り組んだ。

今後の課題として、展覧会の内容や開催時期、より訴求力のある広報やタイアップをはかることなどを検討しながら、魅力ある展覧会の開催に努めていく。

P課題と目標

・幕末・明治期に撮影され、手彩色が施された写真と関連資料約150点を一堂に展覧し、実物の色合いと構図の美しさを御覧いただき、手彩色写真のもつ機能と時代を超えて魅惑する「JAPAN」の姿を紹介する展覧会を開催する。

・予算書の数値(収支、入場者数、有料率)の達成。

【予算書想定】入館者数 32,000人(有料率75%、24,000人)

・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。目標満足度83以上。

D実施内容

【展覧会名】Colorful JAPAN—幕末・明治手彩色写真への旅

【会 期】3月30日(土)～5月19日(日) 45日間

【展示概要】詳細は報告編p.22

【補助金申請】文化庁 令和5年度・令和6年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業(日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業)」へ申請。採択され、補助金交付を受けた。

【入場者数】15,076人(1日平均335人、有料率62.2%)

【図録売上】635冊

【収支バランス】達成度71%

【関連事業】詳細は報告編p.64

【アンケート満足度】満足度:88.73% スタッフ対応:88.52% 展示のみやすさ:81.48% 解説のわかりやすさ:85.13% 展示室の環境:86.47% 展示品の質:90.11% 図録について:84.07%

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・手彩色写真を主題とした展覧会としては、国内で最大規模のものとなり、独自性のある企画となった。
- ・額装ではなくアルバム形態での展示にこだわったことで、手彩色写真のイメージだけでなく実体を持った「モノ」としての側面を際立たせることができ、歴史的背景に対する来館者の理解が深まった。
- ・手彩色写真という神戸にもゆかりのある幕末～明治期の工芸品を、多くの方に知っていただく機会となった。
- ・インターネットでの広報に注力した。交通広告についてもデジタルサイネージを積極的に活用した。
- ・会場外と1階ホールの2箇所に写真撮影が可能な場所を設けたことで、来館者によるSNSでの口コミも広報手段に入れることができた。
- ・展示しているページ以外に収録されている手彩色写真を、ICT機器を用いて見られるようにすることで、来館者の展示への理解を深めた。
- ・図録、キャプションともに日英2か国語併記とすることで、日本語を母語としない来館者にも展示を楽しんでいただきやすい環境になった。
- ・文化庁の補助及び地元企業の協力を得て、英語での広報や関連事業を展開できた。
- ・近年謳われている「地域における文化観光拠点を中核とした文化観光の推進」の内容に沿うような展覧会の開催となった。
- ・補助金申請の関係で企画したイベントは好評を得た。各協力団体や、ツアー見学先と、本展のみならず今後にもつながる協力関係を築くことができた。
- ・満足度で目標数値を達成した。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・展覧会内容が手彩色写真の解説と既存学説の紹介に留まり、新たな学術的知見やメッセージ性を盛り込むことができなかった。
- ・入場者数および有料率、図録・グッズの売上が想定に及ばなかった。
- ・外国人を対象に、展覧会を鑑賞し館周辺を巡るツアーを企画したが、外国人の応募は1人のみで、企画内容や広報の方法に課題を残すこととなった。

P課題と目標

- ・絵画や彫刻、考古遺物、模型、映像など約150件を通じて、古代ローマと日本の浴場文化を紹介する。また、有馬温泉など神戸市内の浴場文化も知っていただく機会とする。
- ・予算書の数値(収支、入場者数、有料率)の達成。
- 【予算書想定】入場者数:60,000人(有料率74%、1,052人/日)
- ・展覧会内容や関連事業の充実を図る。
- ・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。目標満足度83以上。

D実施内容

- 【展覧会名】テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本
- 【会 期】6月22日(土)～8月25日(日) 56日間
- 【展示概要】詳細は報告編p.30
- 【入場者数】27,920人(有料率:67.1%、1日平均499人)
- 【図録売上】770冊(購入率約3%)
- 【収支バランス】達成度約51%
- 【関連事業】詳細は報告編p.64
- 【アンケート満足度】満足度:87.11% スタッフ対応:88.88% 展示のみやすさ:88.62% 解説のわかりやすさ:87.04% 展示室の環境:87.85% 展示品の質:86.86% 図録について:82.03%

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)**自己評価の詳細 プラス面**

- ・山梨県立美術館、大分県立美術館、パナソニック汐留美術館と連携することによって、国内外に所蔵されている古代ローマと日本の入浴にまつわる資料を一同に介し、展示することができた。
- ・入浴という身近なテーマからローマと日本の文化を紹介していくことで、より親しみやすい展示となった。
- ・来場者の満足度が目標値を上回った。
- ・新聞などの紙媒体とSNSを併用することで、幅広い年代の来場があった。
- ・神戸市内の銭湯や温泉と連携して、広報協力や相互割引などを実施し、それらをきっかけとした来場者があった。また、市内の銭湯マップや使用されていたのれんの提供があり、本会場独自の展示を充実させることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・想定入場者数に至らなかった。
- ・1階ホールの造作に際して、業者への指示が不徹底だったため、床の大理石を一部傷つけることとなった。
- ・演示具について巡回のものと各館用意のものがあつたことから、想定していなかったものが必要になったり、余分に展示台を作製してしまったりといった事態が発生した。

2-2-02-03 デ・キリコ展

P課題と目標

- ・展覧会を通じて、ジョルジョ・デ・キリコの画業とその作品の魅力について、幅広い世代に知ってもらおう機会とする。
- ・【予算書想定】入館者数:120,000人(有料率75%、90,000人)
- ・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。目標満足度83以上。
- ・露出展示となる作品が多いため、来場者・作品ともに安全な会場となるように努める。

D実施内容

- 【展覧会名】デ・キリコ展
- 【会 期】9月14日(土)～12月8日(日) 74日間
- 【展示概要】詳細は報告編p.38
- 【入場者数】76,685人(有料率:約74%、1日平均約1,036人)
- 【図 録】約7,084冊(購入率約9%)
- 【音声ガイド】約10,186台(購入率約13%)
- 【収支バランス】達成度約80%
- 【関連事業】詳細は報告編p.65
- 【アンケート満足度】満足度:92.15 スタッフの対応:90.37 展示の見やすさ:89.73 解説の内容:89.13 展示室の環境:86.83 展示品の質:94.44 図録:87.80

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)**自己評価の詳細 プラス面**

- ・アンケートの満足度が目標を大きく上回り、多くのお客様にご満足いただくことができた。
- ・デ・キリコの活動を初期から晩年まで紹介するとともに、その世界観に合わせた展示デザインが好評であった。
- ・学術的な記念講演会から、イタリア文化会館-大阪と連携した音楽コンサートまで、イタリアの芸術文化を幅広く紹介することができた。
- ・相互割引やオリジナルステッカーの配布など、周辺施設と積極的に連携をはかることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・来館者数が想定を大きく下回り、収支バランスがマイナスとなった。
- ・SNS企画や神戸ジャズストリートでのチラシ配布など様々な広報企画を実施したが、あまり集客につながらなかった。
- ・作品へのお手触れが複数回発生した。

P課題と目標

- ・日本屈指の質を誇る神戸市立博物館の日本製銅版画コレクションから、30点の逸品を厳選し展観する。肉眼では確認できないような細部まで、徹底的にその魅力に迫る。
- ・予算書の数値(収支、入館者数、有料率)の達成。
- 【予算書想定】15,500人(1日平均352)
- ・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。
- ・展示作品に小品が多いため、来館者から「見えにくい」などの意見が想定される。作品展示時に「見せる工夫」を十分に図る。目標満足度83以上。

D実施内容

- 【展覧会名】日本銅版画 30の極み
- 【会期】2月1日(土)～3月23日(日) 44日間
- 【展示概要】詳細はp.48
- 【入館者数】9,945人(1日平均226人、有料率53%)
- 【図録】販売数291冊(購入率2.9%)
- 【収支バランス】達成度89%
- 【アンケート満足度】88.4%
- 【関連事業】詳細は報告編p.65
- 【その他】特別展「古地図からひろがる世界—南波松太郎・蒐集70年の軌跡—」と同時開催。入場者数、収支バランスは、同展と共通。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)**自己評価の詳細 プラス面**

- ・主担当者の長年の研究成果を反映した内容の展覧会となった。
- ・出品作品の多くが小さな画面の作例であったが、展示台や展示ボードを活用したり、全作品に拡大パネルを設置することで、銅版画の魅力由来館者に伝えた。この展示方法について来館者アンケートでも、概ね好意的な意見がみられた。
- ・展覧会図録では、全作品に拡大図、解説を付して、よりわかりやすい内容となった。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・想定入館者数には至らなかった。
- ・展覧会図録の購入率が低かった。

P課題と目標

- ・展覧会を通して、日本屈指の古地図蒐集家であった南波松太郎を紹介するとともに、充実したコレクションの内容を伝える機会とする。
- ・予算書数値(収支、入場者数、有料率)の達成。
- 【予算書想定】入場者数15,500人(370人/日) 有料率66%
- ・アンケートなどお客様の声を通し、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。目標満足度83以上。

D実施内容

- 【展覧会名】古地図からひろがる世界—南波松太郎・蒐集70年の軌跡—
- 【会期】2月1日(土)～3月23日(日)44日間
- 【展示概要】詳細は報告編p.48
- 【入場者数】9,945人(1日平均226人、有料率53%)
- 【図録売上】516冊(購入率5.1%)
- 【収支バランス】達成度89%
- 【関連事業】詳細は報告編p.65
- 【アンケート満足度】満足度88.39% スタッフ対応89.75% 展示のみやすさ85.49% 解説のわかりやすさ87.76% 展示室の環境86.63% 展示品の質89.93% 図録について83.21%

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)**自己評価の詳細 プラス面**

- ・初公開となる作品や、数十年ぶりの公開となる資料を積極的に選択して展示し、これまであまり知られてこなかった南波松太郎コレクションの多様さ、蒐集にかける南波松太郎の熱意を紹介することができた。
- ・ガラス面から資料が遠く細かな部分が見えにくかったため、一部の展示資料には拡大パネルを作成し、資料とあわせて展示した。
- ・図録をチケットカウンターで販売したところ、購入率が5%を超えた。多くの入場者に図録を手にとっていただけた。
- ・相互割引など、周辺施設と積極的に連携をはかることができ、集客につながった可能性がある。
- ・展示室内の作品をすべて写真撮影可としたことで、入場者によるSNS投稿が多くみられた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・古地図だけではないコレクションの魅力を知ってもらいたいという希望から、あえて古地図資料の展示数を減らしたが、入場者からは「もっと古地図がみたかった」という声があった。
- ・資料の安全性を考慮して展示した結果、入場者から「ガラス面から資料が遠くて見えにくい」という声があった。
- ・目標入場者数を達成することができなかった。
- ・会期中に図録の通信販売を求める問い合わせが多かったが、運營業務に通信販売対応を含んでいなかったため、対応することができなかった。

2-2-03 特別利用等

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

画像提供は昨年度よりも利用件数が増加するなど、当館の画像データ利用が広まりつつある印象がある。特別利用・館外貸出も含めてスムーズに処理が行うことができた。

2-2-03-01 画像利用・画像提供

P課題と目標

- ・申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切に行う。
- ・手続き中に発生した問題を記録し、必要に応じて来年度以降の運用方法、契約内容を改善する。

D実施内容

【画像利用】172件507点
【画像提供】456件602点

【昨年度実績】

画像利用169件827点

画像提供387件582点

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・申請手続きを適切に行えた。
- ・画像利用申請書の許諾条件の改訂を行った。
- ・画像提供業務委託業者と連絡を取り合い、大きな遅延などなく画像提供業務を行うことが出来た。
- ・昨年度より画像提供の件数・点数が増加した。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・昨年度より画像利用点数が減少した。

2-2-03-02 特別利用・館外貸出

P課題と目標

- ・申請に関する手続きを迅速かつ適切に行う。
- ・申請に際しては、申請者・資料担当者と十分な調整を行い、ミスやトラブルのないように手続きを進める。

D実施内容

【特別利用 館外貸出】9か所34件37点
詳細は報告編p.60
【特別利用 館外貸出以外】申請48件526点
詳細は報告編p.61

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・申請手続きをスムーズに処理できた。

自己評価の詳細 マイナス面

2-2-04 広報

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

館内外の掲示、ホームページの情報を誤りなく更新できた。コレクション展示のポスターデザインを委託することで、職員の負担軽減ができた。

メールによる問い合わせ・広報画像の提供についても、大きく遅れることなく返信できている。

2-2-04-01 HP、SNS

P課題と目標

【全体】年度当初に、更新及び投稿の中長期計画、作業フローを整理する。

【HP】遅滞なく適したタイミングで更新できるよう努める。利用者にとって見やすく分かりやすい情報提供を目指す。

【HP】来年度の保守管理業務の契約更新に向けて、準備を進める。

【SNS】Facebook、X、Instagramについて現状分析を実施し、投稿数及びフォロワー数の増加を目指す。

D実施内容

【HP】

- ・委託業者による更新件数59件(昨年度比4件増)
- ・訪問者数946,387アクセス(昨年度比約29%増)

【SNS】

- ・Facebook

フォロワー数:3,651(昨年度比約0.3%増)、投稿数:146(昨年度比34件増)、リーチ数:15,346(昨年度比16%減)

- ・X

フォロワー数13,941(昨年度比約13%増)、投稿数204(昨年度比24件減)、インプレッション数898,155(昨年度比28%減)

- ・Instagram

フォロワー数1,835(昨年度比約211%増)、投稿数66(昨年度比27件増)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・おおよそ必要なタイミングでHPを更新することができた。
- ・展覧会やイベントについて、SNSで積極的に発信することができた。
- ・リポスト機能などを活用することで、幅広い関連情報を届けることができた。
- ・長期間空くことなく、投稿を続けることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・終了した展覧会やイベントの情報を、数日掲載したままにしてしまった。
- ・コレクション展示ページの更新が遅れてしまったことがあった。
- ・次年度の契約について、見通しを立てることができなかった。
- ・インスタグラムは投稿に関する制約が多く、投稿数が伸び悩んだ。

P課題と目標

博物館だよりの秋号(No.125,8月末)、春号(No.126,3月末)を刊行し、来館者への館内での配布、関連施設への発送を行う。また、電子データを博物館ホームページ等において公開、SNSでの紹介を行う。内容構成については、展覧会、普及事業の周知ならびに学芸員による研究成果の発信を両立したものにす。今年度は近年当館に加わった館蔵品を公開する機会が複数ある。館蔵品の魅力をより伝えることができるような内容を盛り込む。

D実施内容

【125号】5,000部、8月30日発行。館内で配布した(全て配布済)。
 【126号】5000部、3月28日発行。館内で配布予定。
 【配布場所】情報コーナー、ちらし置き場、インフォメーションカウンター
 広報のため、関連施設、ミュージアムカード会員等へ発送を行った。関連施設には、配架を依頼した。
 PDFを神戸市立博物館ホームページに掲載した。
 ※郵送料値上げのため、126号以降ミュージアムカード会員への送付を停止した。125号送付時に、会員向けに周知済。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)**自己評価の詳細 プラス面**

- ・125は発行、発送作業、HP公開まで概ねスケジュール通りに行えた。
- ※126号は作成済、来年度4月上旬に発送作業予定。
- ・当該年度の展示内容を踏まえた記事(新収蔵品資料の紹介、国宝桜ヶ丘銅鐸群発見60年)を掲載し、展覧会や館蔵品の周知をはかった。
- ・ミュージアムカード会員向けの発送を停止したが、事前に周知していたためトラブルもなく、配布先の見直しを実施できた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・ホームページ公開時に、SNS等を活用した積極的な広報ができなかった。

P課題と目標

- ・外部からの問合せに対し、担当者間で情報共有を行い、遅滞なく適切に対応する。
- ・ポスターやチラシ、インターネット上で公開される館の情報について、誤った情報が無いよう、発信前に確実にチェックを行う。
- ・博物館周囲の掲示板やサンポチカ、花時計ギャラリーに展覧会ポスターを掲示し、展覧会の周知をはかる。サンポチカでは展覧会情報のほか、ミュージアムグッズや学習支援交流員の活動についても紹介する。
- ・ローソン、ダイエー、みなと銀行の情報発信コーナー、旧居留地周辺の各施設へのチラシ配架などで幅広い層への情報発信を行う。

D実施内容

- ・メールでの問い合わせにつき、各担当者に割り振り、対応した。
 - ・特別展や企画展の広報印刷物のみならず、当館から発行する各種広報印刷物、Web掲載情報につき、内容の確認を行った。
 - ①各種広報媒体への記事掲載状況・回数 計105件
 - ②神戸市関係の広報媒体への情報提供 計55件
 - ③館外への博物館情報の発信 計21回
 - ④館外各施設との広報連携 計1回
- いずれも、詳細は報告編p.61

【その他】

「神戸アリーナプロジェクト」ムービーの製作に協力した。

自己評価 A 優れている

自己評価の詳細 プラス面

- ・コレクション展示のポスター製作を今年度の途中から外部に委託し、よりよい広報効果を期待することができるようになった。
- ・展覧会や博物館についての情報を、取材や広報記事の確認を通して正確に発信することができた。
- ・担当間で分担し、「広報照会メール受付リスト」を確認することで、広報問い合わせに対し漏れなく対応することができた。
- ・今年度より情報発信に「おでかけKOBE」を活用した。その結果、記者資料提供以上に情報を捕捉されやすくなり、一部のイベントでは応募者が定員の約10倍に達するなど、これまで届きにくかった層へ情報をとどけることができた。
- ・新たに、阪急三宮駅北側の三宮オーエスビジョンおよび、メリケンパーク大型ビジョンへ展覧会情報を掲出した。館外への情報発信手段の新規開拓をするとともに、今まで情報を提供してきた層とは異なる、新しい層の人々へ展覧会情報を提供できた。
- ・デ・キリコ展にあわせて京町筋へバナーを掲出することで、通りを通行する多くの人に対し、展覧会情報を提供できた。
- ・GLION ARENA KOBEに伴う「神戸アリーナプロジェクト」の一環として製作される動画に協力した。この協力を通して、GLION ARENA KOBEに関心を持つ人々に当館についての情報を提供することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・コレクション展示ポスターの製作にかかる契約について、事務負担面で課題が残った。

2-2-05 広聴

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

アンケートの回答数を増やすため粗品を景品としたところ、増加したことから、一定の効果はあると考えられる。また、紙だけでなくWEBアンケートも併用運用を開始している。ただし、回答率は10%以下のため、根本的な解決にはなっていない。

2-2-05-01 広聴(展覧会等アンケート調査実施、結果集計)

P課題と目標

- ・特別展、コレクション展示、1階無料ゾーンを対象とした記述式アンケートを実施し、その結果を職員に速やかに共有する。
- ・オンライン形式のアンケートと紙のアンケートを併設する。
- ・オンラインアンケートの回答率が高くなるように工夫する。

D実施内容

- ・特別展、常設展期間中に、館内にアンケート用紙・回収箱を設置し、広聴活動を実施。回収した用紙は日々回覧している。
- ①特別展「Colorful JAPAN—幕末・明治手彩色写真への旅」回収枚数:641枚(入館者数:15,076人)回収率:4% 総合評価:86.52%
- ②特別展「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」回収枚数:419枚(入館者数:27,920人)回収率:2% 総合評価:87.11%
- ③特別展「デ・キリコ展」回収枚数:313枚 回収率:0% 総合評価:92.15%
- ④特別展「古地図からひろがる世界—南波松太郎・蒐集70年の軌跡—」同時開催特別展「日本銅版画 30の極み」回収枚数:208枚(入館者数:9945人)回収率:2% 総合評価:86.55%(古地図)、89.11%(銅版画)
- ・今年度より、従来のアンケート用紙に加え、Microsoft Formsを利用したオンラインアンケートを実施。
- ※展覧会アンケート調査結果は各展覧会の項目を参照。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・オンラインアンケートの併用運用を開始したほか、回答者には粗品を景品とするなど、アンケート回答率の増加に努めた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・展覧会後の集計結果の反映が遅れてしまった。
- ・オンラインアンケートの回答率が低い。
- ・特別展の主催各社が実施したオンラインアンケートに回答する来場者が多く、館のアンケート回答率が下がった。

2-2-06 ミュージアムショップ

評価 C やや劣る

評価の詳細

在庫管理や納品作業を含む、商品管理のシステムについてはほぼ完成されていたが、店頭での品切れの続出など、より効率的な商品管理のあり方は、当館の担当者のみならず、店頭業者との密接な連携によって改善する必要がある。

2-2-06-01 ミュージアムグッズ開発・販売

P課題と目標

- ・館蔵品によるオリジナルミュージアムグッズを作成し、販売する。
- ・SNS等を利用し、ミュージアムグッズを紹介する。
- ・データベースの利用、棚卸しによる在庫管理を徹底する。

D実施内容

【オリジナルミュージアムグッズの作成と販売】

絵葉書(5種)、三角スケール(2種)の新規作成・販売をおこなった。

【広報】

SNS(Facebook、X):1件

【展覧会にあわせた販売】

特別展「古地図からひろがる世界」と「日本銅版画30の極み」開催期間中に、出展されている作品に関連したミュージアムグッズを専用コーナーにまとめて陳列し、販売した。

自己評価 C やや劣る

自己評価の詳細 プラス面

- ・業者が2度変わる事となったが、大きなトラブルなくミュージアムグッズの販売することができた。
- ・特別展「古地図からひろがる世界」と「日本銅版画30の極み」にあわせて、関連グッズの紹介パネルを設置することで、グッズの販売を促進することができた。
- ・さんぽちかでオリジナルグッズの展示を実施した。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・新規のグッズをあまり作成することができなかった。
- ・グッズを卸すタイミングについて、ショップとうまく連携をとることができず、店頭在庫をきらしてしまう事態が度々発生した。
- ・グッズに関する発信をあまりすることができなかった。
- ・在庫管理体制の構築が不十分だった。

評価 A 優れている

評価の詳細

20時までの夜間開館を機に、地域連携事業としてのナイトミュージアム関連イベントや相互サービスなど近隣施設との連携を進めた。ナイトタイムでの学芸員の展示解説会、月末の金曜日にはナイトタイムミュージアムとして地階講堂での音楽ライブやワークショップなどを実施し、博物館のみならず、まちの回遊性や地域社会の活性化に貢献する取り組みを進めた。

学校との連携では、博物館の職員・学芸員が学校に出向き、学校教員と連携して授業をつくりあげるアウトリーチ活動のほかに、オンライン授業プログラムを試行した。学校連携においては最終的に子供たちに博物館に来てもらって本物に触れてもらうことを念頭に、今後も新たな取り組みを進めていきたい。

大学連携における近隣の大学への学芸員の講義出講や博物館実習生の受入れ、学習支援交流員の活動も事業創出型を原則としつつ、学芸員らとの新たな情報共有の仕組みの中で広がりを見せており、今後一層の充実が見込める。

期待以上の活動を果たせたことから本項目をA評価とした。本項目は、地域連携・学校連携等、地域の人々とともに歩む博物館にとって重要であり、次年度以降にさらなる成果につながるよう取り組みを進めていく。

3-3-01 普及事業

評価 A 優れている

評価の詳細

今年度の普及事業について、一般向け、子ども向けともに充実した事業展開ができた。これに加えて、今年度は、地域と連携した事業やナイトタイムミュージアム事業が昨年度に比べて一層充実した点が高く評価できる。周辺商業施設やホテルなどと継続的に相互割引・相互サービスや地階講堂での音楽ライブやダンスパフォーマンス、三宮プラッツとの連携など、まちを回遊する仕掛けを作り、地域全体の活性化にも大きく寄与する取り組みとなった。

3-3-01-01 一般向け普及事業(館内オリエンテーション含む)

P課題と目標

- ・普及事業及び館内オリエンテーションを通して博物館や当館所蔵品、神戸の歴史に親しんでもらう機会とする。
- ・各普及事業について円滑かつ安全に実施する。
- ・各普及事業の統合を図るとともに、業務を効率化する。
- ・各普及事業の広報を積極的に行う。

D実施内容

- 【展覧会に関する一般向け事業】報告編p.64
- 【その他の一般向け事業】報告編p.66
- 【広報実績】
- ・展覧会に関する一般向け事業については、チラシ、おでかけKOBЕ、SNS、博物館ホームページで発信した。
- ・障害者のための鑑賞会については、障害者支援施設に特製チラシを送付した。未就学児と保護者のための鑑賞会については、未就学児のいる保護者に周知するため、保育園等施設への特製チラシの送付に加え、展覧会主催者の神戸新聞社が運営する子育て支援サイト「神戸新聞子育てクラブ すきっぷ」にも情報を掲載した。
- ・外国人向けバスツアーでは、英語表記の特製チラシを作成し、館内および国際交流施設等で配布した。英語表記によるSNS投稿も実施した。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・改修工事を実施した昨年度に比べ、展覧会に関する一般向け事業の回数が増加した。
- ・イベント管理システムによるオンライン申込に加え、往復はがきでの申込も受け付けることで、幅広い層から応募があった。
- ・急遽イベントを中止、延期せざるを得ない事態が発生したが、速やかに参加者に通知することができた。
- ・未就学児と保護者のための鑑賞会について子育て支援サイトに掲載し、子育て世代に情報を届けることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・イベント管理システムの申込完了メールを当選メールと勘違いし、当日来館してしまう事案が複数回発生した。
- ・広報が十分に行えなかった。
- ・イベントにより人気に偏りがあり、人気が集中するイベントでは、多くの応募者に断りの連絡を入れることとなった。
- ・外国人向けイベントについて、英語での広報を展開したが、大きな成果は得られなかった。

P課題と目標

- ・開かれた博物館をめざす活動の一つとして、子供向けの教育普及事業を積極的に実施する。
- ・展覧会に関連した子供向け事業の充実をはかる。
- ・各種イベントの実施内容の見直しをはかる。

D実施内容

【活動内容】

- ・ジュニアミュージアム講座2回
- ・ワークショップ2回
- ・博物館たんけん隊1回
- ・こども鑑賞会1回

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・各イベントのアンケート結果から、「おでかけKOBE」を見てイベントを知ったという回答が多くみられた。「おでかけKOBE」による効果的な広報ができた。
- ・各イベントのアンケート結果で、高い満足度を得た。
- ・「浮世絵入門」の応募が3.7倍(こどもの部)と15.3倍(親子の部)となっており、他のイベントと比べて非常に高い倍率であった。当館の取り組みを知ってもらい良い機会となった。
- ・例年夏休みに実施していた「土器づくり教室」を「浮世絵入門」に変更した。参加者、スタッフともに熱中症のリスクを回避することができた。
- ・イベントによって、事前申込制としたことで、当日の参加人数をおおよそ把握でき、スムーズな運営ができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・広報が不十分で参加者が定員に満たないイベントがあった。
- ・事前申込制でないイベントでは、参加人数を見積もることが難しく、運営に課題が残った。

3-3-02 博学連携

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

今年度も連携授業、学校来館対応ともに充実した活動を実施することができた。
連携授業のネット申込への変更、来年度を見据えたオンライン授業の準備、新たなオリエンテーションプログラム1種類、新規ワークショップ4種類の製作など、既存事業の見直しができた点、評価される。
大学との連携においても、博物館実習の受け入れ、神戸松陰女子学院大学との連携（「神戸研究総論」への出講、松陰祭でのおきしお号展示及びワークショップ）など積極的に実施できた。
来年度以降、博物館だからこそできる学校連携の方向性を再検討し、より効果的な事業展開をはかっている。

3-3-02-01 連携授業(館内オリエンテーション含む)

P課題と目標	D実施内容
<ul style="list-style-type: none">・連携授業はスケジュールに余裕を持たせ、年間100回程度実施する。・来年度に向けて、授業内容や実施方法、実施回数の見直しをはかる。・なるべく多くの学校にオリエンテーションを実施する。・来館により理解が一層深まるよう、来館向けのワークシートの充実をはかる。	<p>【連携授業】報告編P.67を参照</p> <ul style="list-style-type: none">(1)実施校数 計123校(小学校112校 中学校8校 特別支援学校3校)(2)実施内容 計123回(3)学芸員の同行回数 8名が28回の授業に同行(4)移動博物館おきしお夢はこぶ号の運用 14回 ※松陰祭を含む <p>【学校来館・館内オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none">(1)来館校数と人数 計163校10,781人(2)オリエンテーション実施回数 16回(3)職業インタビュー実施回数 1回 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・トライやる・ウィーク 11月12日・13日 3人 11月14日・15日4人

自己評価 A 優れている

自己評価の詳細 プラス面

- ・「授業調整日」を月2日程度設けることで、学校園へ来館や問い合わせ対応にあてることができた。
- ・来年度ネットを使ったオンライン授業を新設するにあたり、既存の授業の一部を見直し、オンライン授業のプログラムを1つ作成した。
- ・昨年度まで連携授業の申込を、年度末の「先行予約」と年度当初の「電話受付」の2段階で行っていたが、本年度からすべて年度当初のネットによる申込に移行した。
- ・今年度16回のオリエンテーションを実施することができ、昨年度より回数を増やすことができた。
- ・オリエンテーションのプログラムに「神戸市立博物館と阪神・淡路大震災」を新設した。
- ・来館向けのワークシートを、「中世～近世」「近世～近代(～開港前)」「近代(開港後～)」「明治のころの港とまち(小学校3年生)」の4種類を追加した。
- ・トライやる・ウィークのプログラムを見直し、博物館の仕事により体験してもらえるように実施することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・年度途中の連携授業申込みや問い合わせも多くあり、キャンセル待ちを案内することや断ることが多かった。
- ・来館ORの際に学校園との連携が不足し、館内誘導にミスが生じた。

P課題と目標

- ・講座やイベントの開催予定が確定した時点で早めに館内で共有する。
- ・実施後は速やかに実績を記録、報告する。
- ・地域と連携し、博物館の強みやスキルを活かした事業を企画、実施する。

D実施内容

詳細は報告編p.68

【地域連携・相互サービス・ナイトタイムミュージアム】

- ・6月から金曜、土曜の20時までの夜間開館
- ・周辺の飲食店とタイアップ、割引適用キャンペーン、相互連携
- ・ナイトタイムミュージアムイベント 18回
(ワークショップ、音楽ライブ、ダンスパフォーマンス、ファッションショーなど)

- ・旧居留地連絡協議会クリーン作戦 3回参加

- ・三宮プラッツとの連携イベント回数 9回

(写真コンクール、謎解きイベントなど)

【神戸市文化振興財団との連携事業による講座】

文化センター地域セミナー 13回開催 のべ399名参加

【阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)】

対面式会議4回

【KOBEミュージアムリンク】

月1回の定例会と広報担当者会、スタンプラリーを実施

自己評価 S 特に優れている**自己評価の詳細 プラス面**

- ・6月より金曜・土曜日は20時まで夜間開館し、毎月第4金曜日に「KOBE NIGHT LOOP」として、博物館の地階講堂での音楽ライブやダンスイベント、1階体験学習室でワークショップなどを開催し、さらに三宮プラッツと連携した取り組みをすすめた。博物館周辺やウォーターフロントエリアの集客施設やホテル、飲食店などと相互割引を実施、広報面などの連携を拡充した。
- ・神戸市文化振興財団との連携事業による講座では、これまで開催してきた文化センターでの地域セミナー(特別講演会など)を実施し、より多くの人たちに神戸の歴史文化について知ってもらうことができた。
- ・阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)について他館と活発な意見交換を行うことができた。
- ・KOBEミュージアムリンクにおいては他館との情報共有およびスタンプラリーを実施することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

P課題と目標

- ・学生が安心・満足して実習課題に取り組めるように、PDCAサイクルを意識したプログラムを作成し、できるかぎりフィードバックの時間を充実させる。
- ・学生の「専攻分野」「当館での実習希望理由」をもとに、受講生が積極的に参加できるような内容にすることで、学びを深めてもらう。
- ・今年度は1班集体での実施となるため、講義中に対応する受講生の数がここ数年にくらべて多い。スムーズな進行、及び受講生に対してヒアリングやフィードバックが不足なくできるように実習担当者側の体制を整える。
- ・学生にとって安全、かつ充実した実習プログラムを構築し、遂行する。
- ・今年度の実施内容を振り返り、来年度の博物館実習にかかる募集要項、実習スケジュールを改善する。

D実施内容

- 【実習生募集と受入】2月20日 当館HPにて実習生募集を開始。4月23日 申込締切(必着)。定員15人に対して、18校21人の応募。4月26日 書類選考の結果、14校15人に受入予定通知を送付。6月4日 受入大学及び実習生に対して、実習費用納付書、実習プログラム、実習課題の詳細と注意事項を通知。
- 【実習内容】8月6日～8月10日(5日間) ※実習内容は別紙表8参照。
- 【実習課題】展示計画・鑑賞ガイドの作成。※今年度の実習課題は班(5人)で取り組むものとした。
- 【来年度分の受講生募集】今年度の反省を踏まえて、来年度の実習内容を策定
2025年2月18日(火)より、HPにて来年度実習生募集を開始。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)**自己評価の詳細 プラス面**

- ・2012年以来となる1班集体での実施となったがトラブルもなく実施することができた。
- ・プログラムに資料の取り扱いの講義を増やして、より実践的な内容となるように心掛けた。受講生からもある程度の評価を得た。
- ・実習課題の作成にあたっては、班集体での取り組みとなったが、実習生間で協力しあい、成果物を仕上げる事ができた。これまでに引き続き、PDCAサイクルを意識して日々学生に作成時間を設け、学芸員によるヒアリングとフィードバックを行った。
- ・実習課題として作成した展示プラン・鑑賞ガイドを来館者にみってもらう場を設けた。実習生が来館者に、制作物の説明を行ったが、大きなトラブルなく遂行することができた。実習生からはより実践的な経験ができたという好意的な感想を得た。
- ・例年より早い時期の開催となったが、募集案内公開から受入通知、詳細内容の送付までスムーズに行うことが出来た。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・開館日、展覧会スケジュールの影響により、実施期間を1週とし、受け入れ数を15人としたため定員減となった。
- ・講義内容について、「大学の講義内容と変わらなかった」という意見があった。当館の取り組みを中心とした、より具体的な内容にするなど、工夫が必要といえる。
- ・実習費の支払いにかかる書類について、インボイス制度に対応できていなかった。
- ・実習応募者の中で不受理とした学生は、自身の専門と当館の基本テーマや性格との一致しないもの、海外の大学を卒業していることなどが理由であった。当館の博物館実習プログラムを確認いただくように各大学へ事前に周知をはかる、よりわかりやすい募集案内を作成するなど改善が必要と思われる。

3-3-03 学習支援交流員

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

昨年度募集した新規の学習支援交流員を迎え充実した活動を実施することができた。学芸員も参加し意見交換しながら新規ワークショップを構築、体験学習室の教材資料の勉強会を設け学習支援交流員の来館対応スキルを向上させることができた。

また、三宮-元町間のサンポチカギャラリーを利用して学習支援交流員が行うイベントの案内等を行い、博物館ホームページやSNSのオンライン媒体以外での広報の充実化を図った。

加えて、月1回の定例会やメールなどにより学校来館日時の共有をはかった結果、学習支援交流員の学校来館時の支援活動が広がりを見せた。

来年度にむけた課題として、学習支援交流員間の知識・経験・技術継承や、多様な意見に耳を傾け互いを尊重しながら活動ができる雰囲気づくりを醸成していきたい。

3-3-03-01 学習支援交流員の活動(定例会・研修・講座・ワークショップ)

P課題と目標

- ・学習支援交流員を新たに募集・登録する。
- ・学習支援交流員の定例会、勉強会、研修を漏れなく実施し、学習支援交流員が積極的に活動できるよう努める。
- ・学習支援交流員が活動を円滑に実施できるよう、職員は助言や補助などを行う。

D実施内容

学習支援交流員17名、学習支援交流員アドバイザー21名 計38名
今年度の新規交流員の募集は実施しなかった。
【活動内容】 〇内は昨年度の回数
イベントにおけるワークショップ 1回(4回)
館内ワークショップ 31回(4回)
うち2回はトライやる・ウィークのプログラムとして中学生と共に実施。
居留地ガイド 6回(9回)
来館対応 18回(6回)
新規ワークショップの企画・開発 2件
ワークショップのマニュアル作成 1件
詳細は報告編p.70
学芸員からの助言や補助、広報、資材調達など勉強会 1回(1回)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・毎月予定通り、定例会を開催して交流員と情報共有を行えた。
- ・新規ワークショップの開発にとまない、学芸員も参加し意見交換等を実施できた。
- ・体験学習室の教材資料の勉強会を設けたことで、交流員の来館対応が充実した。
- ・体験学習室でのワークショップや来館者対応、居留地ガイド等の活動機会を増やすことができた他、トライやる・ウィークや松蔭祭など新しい活動の場を提供できた。
- ・三宮-元町間のサンポチカギャラリーを利用して学習支援交流員が行うイベントの案内等を行い、博物館ホームページやSNSのオンライン媒体以外の広報を行った。
- ・学校来館等の周知を積極的に行い、昨年度と比較し、火曜日以外の活動(ワークショップや学校対応)が大幅に増えた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・アドバイザーから交流員への技術継承が進んでいない。
- ・上記の事情により、既存の交流員のスキルアップを優先し、交流員の新規募集を実施しなかった。
- ・学芸員のワークショップ反省会への参加が出来ておらず、意見交換が不足している場面がある。
- ・勉強会が1回しか実施できなかった。

4. やさしさと安心の確保

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

施設管理や来館者サービスの向上にむけて、事業者と連携しながら、求められる役割を果たすように努めた。日々の業務のなかで来館者の目線に立ったサービスが提供できるよう常日頃から心がけるとともに、ミュージアムショップ・カフェなどの利用者サービスの向上に引き続き取り組んでいく。

4-4-01 施設管理

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

令和6年度は大規模修繕はなかったが、1階歴史展示室防火扉や屋上鋼製扉修理など計22件の小規模修繕を実施した。設備総括管理委託事業者と防災設備や空調設備の不具合状況と施工時期を綿密に調整の上、適宜適切に実施した。

4-4-01-01 建物・設備の現状と課題、長寿命化の計画と対策

P課題と目標

・設備総括管理業務の委託業者と連携し、設備稼働状況等の情報を共有し、計画性をもって設備保守点検等、更新等を実施する。

D実施内容

・エレベーターや消防設備等の点検、その他法定点検を実施し、不備等があれば適切な修理や部品の交換を行った。
(1F歴史展示室出口の防火戸自動閉鎖装置取替、排煙設備手動開放装置修繕等)
・空調機器等の設備機器の運転、管理を適切に行った。
・2F展示室展示ケース扉修繕,屋上鋼製扉修理(扉枠廻りシール打ち換え、エア・タイトパッキン取替、防水)等、適時適切な修繕工事を行った。
・西側通用口門扉補修(枠当たり)を行った。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

・設備総括管理業務の委託事業者と連携を密にしながら、適切な設備の維持管理を確実に行った。
・消防設備や防火設備において、経年劣化等での不具合箇所について昨年度に引き続き補修を行った。
・R7年度からR8年度に向けて、外壁調査、ハロゲン化物消火設備更新など予定を組み、予算確保に務めた。

自己評価の詳細 マイナス面

4-4-02 インフォメーション、ショップ・カフェ

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

インフォメーションについては、入館者の案内業務を迅速、適切、丁寧に行い、苦情が発生した場合も粘り強く対応した。

ミュージアムショップ・カフェについては、年度途中で運営事業者の変更を余儀なくされたが、新たなメニューの提供を受け、来館者の視点でサービスの質を落とすことなく継続できた。

4-4-02-01 インフォメーション

P課題と目標

- ・1階インフォメーション及び2階コレクション展示室入口での業務を円滑に実施すること。
- ・3階事務室内での電話交換業務を円滑に行うこと。
- ・日報を正確に作成するとともに、入館者情報を適時正確に把握すること。
- ・12月からの新たな契約締結を速やかに行うこと。

D実施内容

- ・日報、月報、入館者情報等、適時正確に報告を受けた。
- ・入館者への案内を迅速、適切、丁寧に行っており、苦情にも粘り強く対応した。
- ・博物館職員や警備・清掃等の館内関係者との連携を図り、来館者の立場に立った対応を行った。
- ・館内関係者からなる連絡会等では、来館者目線からの改善点の指摘や、円滑な運営につながる貴重な意見の提案などがあり、館の運営改善に役立った。
- ・12月からの契約を滞りなく行った。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・館内インフォメーション、電話交換の業務を円滑に実施するとともに、スタッフの来館者目線からの対応により、来館者からお褒めの言葉をいただくことにつながった。
- ・日報を正確に作成するとともに、来館者情報を適宜正確に把握することができた。
- ・12月からの契約について、適切にすることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

4-4-02-02 ミュージアムショップ・カフェ

P課題と目標

- ・来館者に喜ばれる質の高いサービスを提供すること。

D実施内容

- ・令和元年のリニューアルオープンより運営してきた事業者から新たな事業者が変わった。
- ・運営事業者が変わったが、新たなメニューの提案(ラテ・アート等)など、来館者の満足度向上につなげることができた。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・レトロで趣のある昭和初期の建物である当館の雰囲気を生かした店舗づくりが行われた。
- ・地元企業と連携したメニューにより工夫を凝らし、地域全体の魅力に務めることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・飲料主体のメニューであるため、今後はランチ等に対応した軽食メニューへの工夫が必要である。

4-4-03 警備、清掃

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

警備については、機械警備と併せて、立哨警備、巡回警備などの人的警備を厳格に実施し、不測の事態の発生予防に努めた。

清掃については、日常清掃、定期清掃を手順どおりに行い、突発的な汚損など緊急対応も含めて適切に実施し、館内及び敷地内の美化維持に努めた。

4-4-03-01 警備

P課題と目標

・展示・館蔵資料の良好な保存環境の保持と、盗難・破損からの保護、並びに来館者への適切な鑑賞環境の提供のため、万全な警備を実施すること。

D実施内容

・機械警備については、毎日午後10時から翌日午前5時まで実施した。
・人的警備については、5月より事業者が変更となった。
・人的警備については昼間は通常2名体制、夜間は24時間勤務の1名体制で常駐警備を実施。休館日、臨時休館日については1名体制で実施した。
・西側通用口における入館者チェックを厳格に行い、不測の自体の発生予防に務めた。
・館内、館外(館周辺)の巡回警備を適切に実施した。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

・立哨警備及び巡回警備について、特に問題なく業務が遂行できた。

自己評価の詳細 マイナス面

4-4-03-02 清掃

P課題と目標

・清掃業務は開館日は3人体制で、開館時間までに業務を完了すること。臨時休館日は2人体制で適切に実施すること。

D実施内容

・日常清掃、定期清掃ともに適切に実施した。
・展示室、回廊、ホール、トイレなど入館者が利用する場所、事務室等施設側が使用する場所ともに手順に従い、適切に業務を実施した。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

自己評価の詳細 マイナス面

4-4-04 緊急時対応

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細

緊急事態への対応として、来館者の体調不良時は、速やかに救護室に誘導し、救急要請を行うなど、適切に対応した。

大規模災害への対応策としては、特別展開催の都度、博物館防災計画に基づき、消防訓練及び地震・津波を想定した避難訓練を実施し、全職員・運営スタッフが危機管理意識を持って参画した。

4-4-04-01 緊急事態への対応状況(来館者対応、事件・事故・災害対応)

P課題と目標

・想定外の事態に対応できるよう、すべての職員・スタッフが万が一の場合の対応を常に意識しておくこと。

D実施内容

・来館者の体調、けが等の対応については、適時スタッフ間の連携により、本人への体調確認や同伴者からの情報収集を円滑に行い、救護室への案内や救急車の要請等、円滑に行うことができた。
・警報発令など、災害発生の危険性が高まった際には、事前に職員への周知を行った。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

・想定外の事態の発生はなかったが、すべての職員・スタッフが、万が一の時にはどのように対処すべきかを常に意識しておくことができた。
・些細な事象にも大きなリスクが潜んでいる場合もあることを常に意識し、行動するよう周知できた。

自己評価の詳細 マイナス面

4-4-04-02 大規模災害への対応策

P課題と目標

・消防、救急計画の周知徹底
・実態に即した避難訓練の実施

D実施内容

・特別展(テルマエ展)において、開催日前日に出火原因に応じた消防避難訓練を実施した。
・出火場所に応じた、適切な避難誘導が必要であることを職員、スタッフ全員で情報を共有した。
・特別展(デ・キリコ展、古地図からひろがる世界展)において、地震、津波を想定した避難訓練を行った。

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

・地震、津波を想定した避難訓練を実施することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・地震・津波を想定した避難訓練について、慣れていない部分もあった。今後はさらに避難誘導について理解を深め、災害発生時に迅速に対応することができるよう努める。